

## 平成30年度 第1回みんなで支える森林づくり上伊那地域会議

開催日時 平成30年7月12日(木) 14:00~16:00

開催場所 伊那合同庁舎講堂

出席委員 唐澤 幸恵委員(NPO法人森の座)、木村 彩香委員(LLP マリッジローカコネクト)、高山 美鈴委員(森だくさんの会)、武田 孝志委員(座長・信州大学農学部)、辻井 俊恵委員(長野県建築士会伊那支部)、寺澤 茂通委員(上伊那森林組合)、三井 清一委員(箕輪町産業振興課)、盛 尚貴委員(高遠第2・第3保育園と地域の未来を考える会)

事務局 堀田地域振興局長、越原林務課長、小林林務係長、青木林産係長、福嶋普及係長、倉本治山林道係長、松尾治山係長、北原主事、中田技師、岡田担当係長、井原担当係長

### 会 議

- (1) 森林づくり県民税の制度及び地域会議の役割
- (2) 上伊那地域の特徴
- (3) 平成30年度の森林づくり県民税の取組

#### <座長選任>

「みんなで支える森林づくり上伊那地域会議設置要綱」第4の2の規定により、委員の互選で武田孝志委員が座長に決定した。

#### <事務局説明>

会議事項(1)、(2)、(3)について、事務局から一括して資料を説明した。

(武田座長)

それでは、第3期の取組について、柱ごとに質問やご意見をお願いします。

1つ目は、「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備ということで、そのうちの河畔林の整備については、県が実施するということですか。

(越原林務課長)

県が直接実施するものと、市町村の取組へ支援するものの2通りあります。

(武田座長)

みんなで支える里山整備事業等については、説明のあった「里山整備利用地域」に認定されないと後の事業が繋がっていかないということになるのでしょうか。

(小林林務係長)

里山整備事業については2つあって、1つは防災・減災の観点での森林整備です。

もう1つが、住民協働により里山の整備を進めるもので、これについては座長御指摘のとおり、「里山整備利用地域」の認定を受けた上で、事業を実施していく仕組みとなっています。

(武田座長)

この住民協働による里山整備が、第3期森林税の目玉と捉えてよいということですか。

(小林林務係長)

そのとおりです。

(武田座長)

ちなみに、上伊那地域ではどのような見通しですか。

(小林林務係長)

まずは管内8市町村それぞれに1地域が認定を受けられるようにできればと考えています。また、そうした地域をモデルにしつつ、多くの地域に広がっていけばと考えています。

なお、先ほど課長から説明したとおり、上伊那地域では現時点で2地域から申請が挙がってきている状況です。

(武田座長)

市町村としてはどうですか。

(三井委員)

ある程度まとまった集約も必要かと思しますので、有効に活用できそうなところなど、地域に働きかけをしていきたいと思っています。

(武田座長)

次に、2つ目の柱は自立的・持続的な森林管理のための間伐等の利活用については、目的は利活用が主になっていて、メニューとすると大きく2つあり、1つが「子どもの居場所」という新しいメニュー、2つとして薪によるエネルギーの地消地産ということですが、まず「子どもの居場所」について、上伊那の見通しはどうですか。

(福嶋普及係長)

上伊那では木工体験活動について、伊那市で4件、中川村で2件、箕輪町で1件の要望があり、先日内示を行ったところです。

また、「子どもの居場所」につきましては、現在全県で公募を行っている段階で、伊那市が1件応募している状況です。

(岡田担当係長)

「子どもの居場所」について補足しますと、保育園に木製のおもちゃを導入したいという内容となっています。

(武田座長)

もう一つの薪によるエネルギーの地消地産に関する事業についてはどうですか。伊那はとも盛んだと思いますが。

(福嶋普及係長)

当事業につきましては、公募事業としまして中川村から応募があり、先日採択されたところです。内容としましては、望岳荘という公共施設に薪ボイラーを導入する計画があり、村内から薪を供給していく仕組みを構築する計画となっています。

(武田座長)

次に、3つ目の森林づくりに関わる人材の育成についてですが、里山リーダーというのは前からあったように思いますがそれとは違うのですか。

(小林林務係長)

これまでの森林税でも人材育成に取り組んできましたが、「里山整備利用地域」という仕組みを動かしていくことから、全体研修や安全講習会を開催する予定です。

また、森林セラピーも本県の大きな特徴になっていることから、セラピー基地等に対する人材育成への支援を行う計画となっています。

(武田座長)

次に、4つ目の多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用については、1つの目玉として学校林の利活用があると思いますが、上伊那地域での見通しはどうですか。

(福嶋普及係長)

これまで学校に対して、市町村の教育委員会を通じて、森林税による学校林の活用支援に関する情報提供を行っており、これから具体的な要望調査を行うところです。

(武田座長)

信州やまほいく認定園のフィールド整備も新しい取組ですね。

(小林林務係長)

そのとおりです。信州やまほいくに関連して、今回、盛さんに地域会議の委員をお願いし

たところですが、森林などをフィールドとして活動している認定園に対して支援が行われることとなっています。

(武田座長)

盛委員さん、コメントはありますか。

(盛委員)

現在、高遠第2・第3保育園に娘が通っていますが、信州やまほいくの認定園になっていまして、保育園の裏山を地元の山主の方の協力を得て利用させていただいています。週の半分くらいは子どもたちが先生と一緒に山に出かけていって、山の中に枝を集めて秘密基地をつくったり、タイヤブランコを設置したり、木登り、また、つるにぶら下がったり、子どもたちは伸び伸びと遊びながら、また、その中で絵本を先生に読んでもらったりしながら保育してもらっています。

その山ですけれども、もともと間伐してある山ですが、未満児といった小さい子どもと一緒に山に入ることから、倒木などの片付けや間伐して腐りかけている木の片付け、けもの道をもっと歩きやすくするなどの整備は、これまで保護者や地元の有志の方に手伝っていただいてボランティアで行っている状況ですので、そうした人件費やロープや道具代などのサポートをしていただけると、とてもありがたいと思います。

(武田座長)

まちなかの緑地整備については、森林税からいうとだんだん離れていっているようにイメージするのですが、わかりやすく説明するとどうなりますか。

(小林林務係長)

上伊那地域では、例えば大芝高原のように身近な森林の利用が進んでいる場所もありますので、逆にイメージしにくいかと思いますが、県全域ではなかなか緑を身近に感じるができない街場の地域もあるということです。上伊那地域とすれば、森林をより一層活用できるような方向にもっていければと考えています。

(武田座長)

次に「観光地」というと、上高地といったイメージが強いかと思いますが、上伊那管内でいうとどのようなイメージになりますか。

(小林林務係長)

御意見としていただくのは、せっかく眺望のよいところなのに、木が大きくなりすぎてしまって景色が見えなくなっている、あるいは森林が真っ暗で台無しになっているといったことがありますので、そうしたところを整備すれば観光地の魅力を向上できるのではないかの発想による事業です。

先ほど課長から説明したとおり、上伊那では4地域から要望をいただいているという状況ですので、採択が決まりましたら、委員の皆様にもお知らせしたいと思います。

(武田座長)

かつて、林業大学校の視察でチロル（オーストリア）に行った際、牧畜も組み合わせながら、景観を見据えて全体的に活用していくようなことになっていたので、県でもそうしたことが広がっていけば効果的な取組になるかもしれないですね。

5つ目、市町村が行う地域独自の取組への支援については非常に大事な取組になると考えますが、何にどう活用していく見通しですか。

(福嶋普及係長)

森林づくり推進支援金につきましては、各市町村で地域固有の課題に対応する取組を支援するという事業で、1期、2期ともに実施しておりまして、松くい虫の被害対策や林道の修繕等に活用されてきています。

平成30年度分につきましては、先日、市町村への配分額が示されたところで、これから、各市町村に計画を提出していただく予定です。

(武田座長)

最後は、普及啓発及び評価・検証ということで、ここに書いてあるとおりにかと思えます。

ひととおり1番から6番まで見たところですが、新しく委員になられた方の方が新しい目で見ることができる様に思いますが、寺澤委員どうですか。

(寺澤委員)

森林整備を進めていく上では、境界が明確でない部分が非常にありますので、森林税だけですべてが解決するわけではないと思いますが、そうしたことを踏まえた事業展開をしていければと思っています。

また、木質ペレットについても先ほど紹介いただきましたが、化石燃料に頼らずに、また、海外から輸入されてきた燃料に頼らないということもあって、実際に地域で活用されていて、温泉施設や介護施設のお風呂なども木質ペレットを活用できますので、ぜひ、地域の循環型資源としても木を活用していただきたいと思えます。

(武田座長)

どんなに森林がいい、木がいいといっても、地域の中でどれだけ循環できるのかというのが、今のお話のとおり大事な点ではないかと思えます。前に、ギッシング（オーストリア）に行ったのですが、かつて外からエネルギーを購入していたものを自分たちの地域の木質エネルギーを活かして地域の中でお金が循環する仕組みをつくっていきこうということで成功している事例もありますので、いきなりはかなわないでしょうけれども、ペレットも大きな車輪の1つではないかと思えます。

(武田座長)

森林税の第3期がはじまる中で、成果を県民の皆さんにどのように伝えたらよいか、また、力を入れて取り組んだ方がよいと思う点は何かについて各委員にお聞きしたいと思えます。

(唐澤委員)

これまでのように、森林整備中心の支援から、第3期は、やまほいくや木質化の取組支援などが加わってきたので、それが活用されていけば、成果として皆さんに見ていただく機会が増えていくのではと感じています。

(武田座長)

もったこうしたらより成果があがるかもというのがありますか。

(唐澤委員)

木を使った社会の仕組みづくり、木を伐って製材してそれを利用してまた植樹していきという循環をつくりたいと常日頃活動しているので、関係が近いがゆえに、逆に森林から距離の遠い方がどのように見ているのか分かりづらいところがあります。

(木村委員)

唐澤委員と真逆で、私は森林のことを何もわからない立場として話をさせていただきますが、成果の伝え方、見え方ということで、柱の6つ目のみんなで支える森林づくり推進事業の広報・普及啓発活動ということが、やはり大事ではないかと思えます。長野県に住んで5年目になりますが、森林税がどこに使われているのか全く目についてこなかったですし、このリーフレットを見て、このキャンプ場のこの階段は森林税が使われていたのかと、写真ではじめて分かるくらいだったので、県民税をこれだけ納めていて、こういうところに使われているんですよというのを、若い立場の私たちがインターネットなどを活用して広報活動していくのがいいのではないかと思えます。

都市圏の人たちから見れば、長野県の森林は自信を持ってお勧めできると思えますし、本当に財産であり宝だと思っていて、神奈川県の大工さんなどと話をすると、長野県は恵まれていると、共通した意見があります。先日、神奈川県で飲食店をオープンする方が、丸太を使ってお皿をつくりたいということで、インターネットで探していたら、スギの輪切りが高値で販売されていたということだったので、私が長野県の地元の知り合いの製材屋さんに頼んだら、1枚数百円で提供してくださいました。そんなことも、長野県は自信を持っていいところだと思えますし、発信をしていくということが大事ではないかと思えます。

(高山委員)

広報という意味では、こうしたリーフレットを作成するなど、懸命に努力をしているはずですが、それがなかなか伝わりきれていないというのが知らせることの難しさだとしみじみ思います。この間からずっと考えていたのですが、木工コンクールというのがありますよね。参加する人たちは、一所懸命がんばって作品をつくらと思います。そうすると木工コンクールがあるとか、木を使うということに意識が向かうと思うので、例えば、難しいかもしれませんが、森林税の活用方法について、アイデアコンクールみたいなものをやったらどうだろうと思いました。こういう使い方があるのではないかなど、どんな事業ができるか考えてみようというようなことを、長野県には信州大学という森林を専門に学ぶことのできる学校もありますし、高校でも林業や環境を学べる学科があるし、小・中学校でもいいので、誰もが参加できる形にして実施する。そして、様々な立場の人が選考委員になって、この考え方はいいねといった提案があれば、思い切って賞金をはずむくらいのことをすれば、少しは知られていくのではないかと思います。

発信するばかりだと、たまたま興味を持ってくれた人しか見てくれない、見てくれる人はいつも同じ人になってしまうということもあるのかなと思って、突飛な考えかもしれませんがそういうことをやってみたらどうかと1つ思いました。

別件で1つ質問ですが、事前に送られてきた資料を真面目に読みました。その中に、森林の恩恵を受けているのは一人当たりいくらかと計算したのがありますが、計算の根拠を教えてもらえたら、例えば、私たちはこのような面でこれだけの金額の恩恵を森林から受けていると、そして森林税の事業によってどれだけのお返しができているというようなことをいえたら、ちょっと楽しいかなと思うので、今日でなくてもいいのでまた教えてください。

(小林林務係長)

高山委員からお話があったのは、このリーフレットを開いていただいて、1のなぜ、森林づくり県民材が必要なのかという欄の上から4行目のところに、「私たち一人当たり年間約140万円もの恩恵を受けていると試算されます」とありまして、そのことだと思います。国全体の森林について、土砂災害や洪水を防ぐなどといった機能を貨幣価値に換算したものがあって、長野県の森林面積などで換算したものがこの数値になります。

試算した根拠となるものがありますので、別の機会にわかりやすい形でお示ししたいと思います。

(武田座長)

試算結果というものはあるだろうけど、それだけではないのではないかと思いますね。長野県は森林県であるのは間違いなくて、先ほど神奈川県の話がありましたが、森林がほとんどないような地域もあるわけで、試算で出てくる以上の価値もあるように思いますね。

(高山委員)

そういったことは、計算に入っていないのですか。

(小林林務係長)

結局、貨幣価値に換算できることのみが計上されているので、座長おっしゃるとおり、森林は様々な効果を複合的に持っているということがあるので、金額に換算できることばかりではないということがあると思います。

(高山委員)

それを大きく、バーンと出せるといいですね。

(武田座長)

信州の森林はもう一段上だというようなことを県で打ち出せれば、森林税を納める気持ちをもっと強くなるのではないですかね。

(小林林務係長)

ありがとうございます。先ほど木村委員からも、都会から出てくるとより一層信州のすばらしさを感じるというご意見もいただきましたが、そういったことをうまく表現できればいいと思うのですが、口で言うほど簡単ではないと思いますので、委員の皆様にもご相談しながらよい方法を考えたいと思います。

(辻井委員)

最初に伺いたいのは、子どもたちの居場所への木のおもちゃの導入に関する事業は、もうしめ切ってしまいましたか。

(岡田担当係長)

子どもの居場所に木のおもちゃなどを導入する事業につきましては、7月11日が公募のしめ切りとなっています。

(辻井委員)

この委員を務めさせていただき当初、森林税って何、と、建築に携わっていながらもよく理解しておらず、建築士の仲間の中でも森林税を知っている人が少ないというなお話をさせていただいていたのですが、それから今までの数年間、気にしているから気付くのかもしれませんが、コンビニにもちゃんと小さなパンフレットが置いてあったり、新聞紙面広告に出ていたり、森林税のPRをあちこちで見かけるようになり、いろいろとPRに取り組んでいるなど感じています。

例えばですが、私は県の景観の方の委員もさせていただいているのですが、だんだん景観ともリンクしてきているところがあり、景観の方も、どうやって皆さんに伝えたらよいかというところから、小・中学校などで景観の授業をさせていただくのを取り入れています。授業をすると必然的に子どものみならず保護者の方の目にも入り多くの方が知るといいう形につながっていくということがあります。

また、先ほど、事業のしめ切りを確認したのは、以前、建築士会の上伊那支部で子どもたちに木造建築を普及させていきたいと、木造建築の模型を使って構造の授業をしたこともあったので、うまく組み合わせ活用できないかなと思ったからです。

上伊那支部ではありませんが、安曇野支部では木の積み木のおもちゃをつくって、市とも協力しながら、いわゆる一般の方たちと交流しながら普及していくという取組をしています。これらは木という観点から、森林の方にも直結してくる話で、景観もそう、建築もそう、森林も、と、それぞれの取組ということではなく、リンクできれば素敵ではないかと思って、例えばそうした木のおもちゃを使いながら森林の話から景観の話もし、建築の話もするというようなことができれば、次世代の子どもたちや親御さんから、多くの方へ、うまく伝わるのではないかと思います。

(小林林務係長)

上伊那地域で子どもの居場所となる場所におもちゃなどを導入する事業が採択を受けるといことになりましたら、ただモノを導入するということでは終わらずに、例えば森の話をするとか、どのような過程でこのおもちゃになったのかといった背景なども含めて伝える場をつくらなければと考えています。

また、公募されていることがきちんと伝わらなければいけないと思いますので、第3期がスタートしたばかりですが、今後、こうした公募事業がある場合には、少なくとも委員さんには地域会議の開催のタイミングでなくても、情報をお伝えできる様に努めていきたいと思っています。

(辻井委員)

来年はこの事業に応募できればと思います。建築士会の支部で、建築の模型ばかりでなく木のジャングルジムを作り、親子で作って遊びながら木の良さも伝えられるのではないかとこのようなプランがありましたので、また検討させていただきたく思います。

(盛委員)

私の中学校2年生の息子は、高遠北小学校を6年生で卒業する時に、この資料にもある学習機の天板ですが、ずっと使ってきて卒業の時に外して持って帰ってきたのですが、例えばこうした机に森林税の焼き印をしてあったりすれば、印象に残るのではないかと思います。

また、森林税を使って整備したというような看板など、行った人がパッと見てすぐわかるような表示があるといいと思いますが、そのようなものはあるのですか。

(小林林務係長)

例えば、森林組合さんで森林税による森林整備を進めている現場では、そうした看板を立てていただいています。

今回、せっかくロゴやキャラクターなどもできましたので、現場に近いところから浸透していくように工夫していきたいと考えています。

(盛委員)

森林税を払っている私たち自身が、こういうことに使われているという満足感を得て暮らしていけるということが重要だと思います。そうしたことが外に拡がっていくことで移住者が増えるなど、いろいろな目が長野県に入ってくると良いのではないかと思うので、このかわいらしいキャラクターや森林税のロゴが、例えばここにある産湯だとか桶などに焼き印として押してあるといいなと思いました。

(三井委員)

平成20年度からの森林税による森林整備の実績がここにあるわけですが、従前の森林税の使い道ではなかなか一般の住民の方の目に触れるということが少なかったかと思いますが、今回の第3期の取組では、住民の皆さんに近いところで使われるということだと思います。私たち市町村も、広報に取り組みながらも、なかなか伝わりにくいというのが実態ですけれども、今回新しい事業もある中で、積極的にプレスリリースするなどして報道の皆さんにも取り上げていただけるようにしながら、住民の皆さんの興味を引くような取組については、積極的に打ち出していくことが必要だと思います。

(寺澤委員)

森林税の取組の一覧にありますように、市町村8地域の里山整備利用地域の認定を目指すということですので、住民の皆さんに見えるところで整備ができる様なところを狙い撃ちできるように、森林組合としても市町村と連携して取り組んでいきたいと思っています。これが森林税で整備された山なんだと訴求できるようなことができればと思いました。

また、先ほど盛委員さんからもありましたが、机の天板が卒業証書代わりに贈られるようなありがたいものになればと思いました。

併せて、管内の学校ではペレットを使ったストーブで暖を取っているといことがありますので、それは化石燃料を使わなかったということで、これは、森林税で表彰してくれないかなと感じました。

(武田座長)

エネルギーの将来のことを考えると、わざわざはるか彼方から、しかも、地中にあるものを地上にばらまいているような行為なので、それに比べてペレットはもともと大気中にあった二酸化炭素を吸収したもので、戻したとしてもニュートラルです。できれば塊として、建物などに蓄えていけば、その分だけどんどん貯金していくのと同じようなことであると思います。

マイケル・グリーンという建築家は何と言っているかということ、絵を出して、1立方の木の上に象が乗っていて、この木の中に象の体重と同じだけの二酸化炭素が詰まっているんだよと、だからできるだけ木を塊として使っていかなければいけないだろうと。そうした中で、都会では高層ビルを木でつくってくだというようなことが、世の中で動いていますが、信州ではあたりまえに木が周りにあるのですから、大きな動きというようなことは逆にこちらから発信していくくらいの気持ちがあってもいいかなという気もしました。

今日、1回目、また、第3期が始まったところでの地域会議でしたが、これから3年の任期になりますが、3年たったときに、やはり上伊那から言ってよかったなというものをどんどん出していけるように精進していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。最後これだけは言っておきたいということはありませんか。

(辻井委員)

先ほどの焼き印については素敵なのでぜひ採用していただければと思いますが、看板については、景観の観点からデザインへの配慮が必要で、看板が逆に景観を損ねるなど悪目立ちしてはいけないという難しいところもありますので、大変かとは思いますが、この場で念のため伝えさせていただきます。

(小林林務係長)

資料にもあるとおり、県産材で公共サインを設置するという事業も計画されていますが、まずは、統一サインのあり方などを決めていくと聞いています。

(武田座長)

そこはすごく難しいところだとは思いますが、観光地の魅力を高めているのか低めてしまっているのか分からないということになっては困りますから。

それでは、本日の議事は全て終了ということで、事務局にお返しします。